

グローバルな視点からの 環境影響評価制度の再検討

原科幸彦

千葉商科大学 学長

国際影響評価学会 (IAIA) 元会長

International Association for Impact Assessment

ETHICS

武士道 (Bushido)

専門家としての倫理

Code of Conduct number 5:

To refuse to provide professional services whenever the professional is required to bias the analysis or omit or distort the facts in order to arrive at **predetermined** finding or result

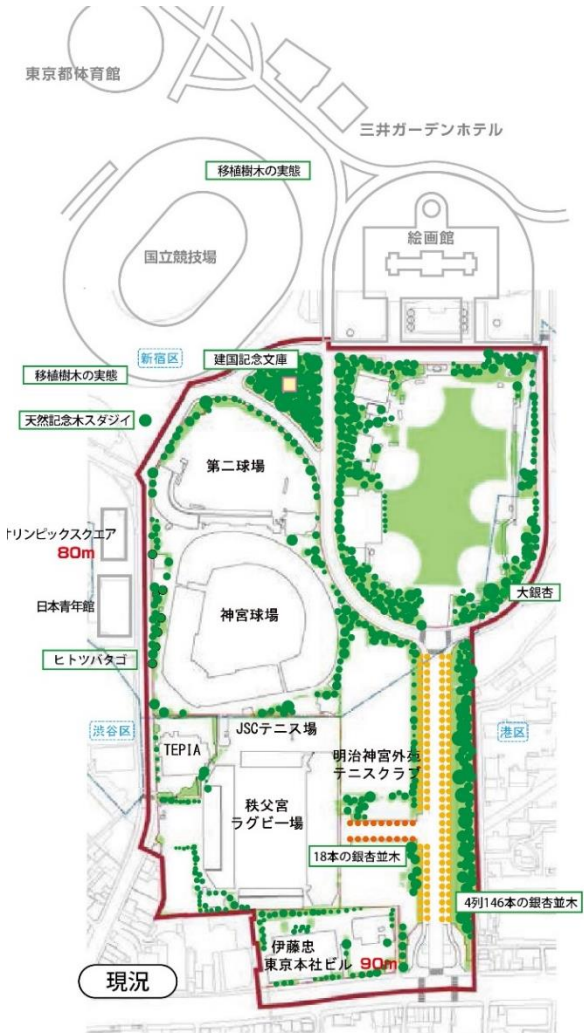


現在の明治神宮外苑

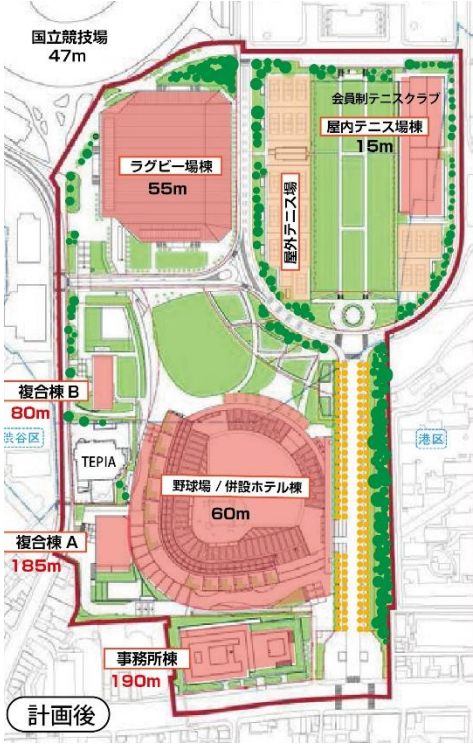
事業者の計画

そして、100年の歴史を語る、膨大な緑の喪失

伐採される1000本近くもの樹木



新国立競技場よりも高い巨大建物と置き換える。
南側には190mと185mのビル、さらに80mのビルも。



中央大学 石川幹子教授調査



東京都都市整備局HP掲載「神宮外苑地区まちづくり計画 2021」に加筆

東京都都市整備局HP掲載「神宮外苑地区まちづくり計画 2021」に加筆

出典 ICOMOS Japan (2022) 『樹木の伐採を回避し「近代日本の名作・神宮外苑」を再生する計画』

米・国家環境政策法 (NEPA, 1969)
「持続可能な開発」の概念

冒頭の目的の記述:

‘which will encourage
productive and enjoyable
harmony between man and
his environment’

(人間と環境との間の、生産的で快
適な調和を促進する)

持続可能性は、人類共通
子々孫々の幸せ、**自然との調和**

「持続可能な開発」実現の要件
-合理的で公正な意思決定-

基本的な手段
環境アセスメント

Environment
自然環境と社会環境

合理性のために、科学的な分析
システム分析の適用

代替案の検討

公正性のために、民主的プロセス

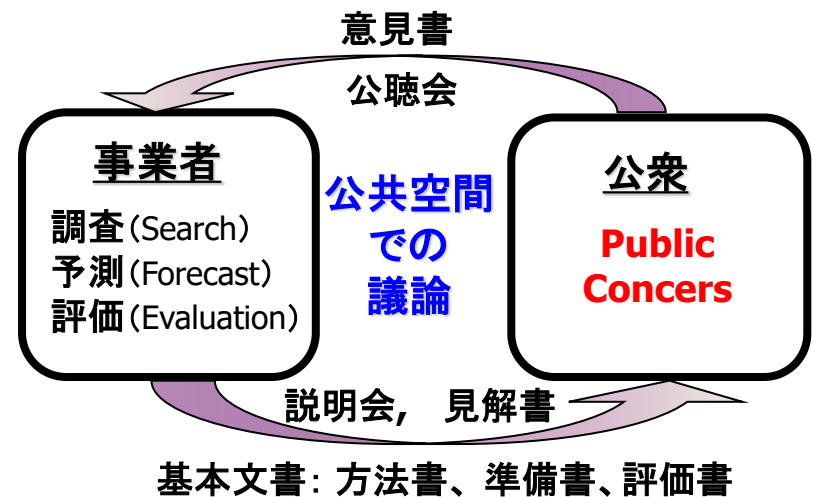
参加


情報公開 ・ ・ 記録と保管

効率性のために、

効率的なコミュニケーション方法

アセス・プロセスでのコミュニケーション



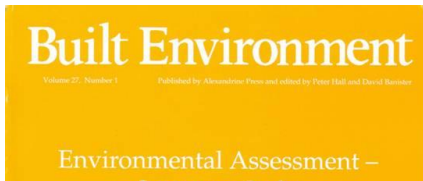


新国立競技場 Zaha Hadid の当初デザイン, 2012

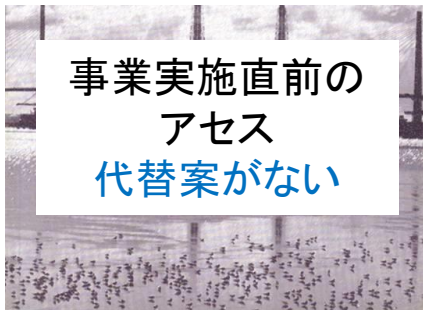
簡易アセスメント

少なすぎる日本のアセス適用
米国の 1/1,000
中国の 1/5,000

不透明なプロセス： 東京五輪招致決定は2013年9月、
その前(2012年11月)にデザインは選定。
計画の意思決定への参加には、**情報公開**の推進が大前提



名古屋、藤前干潟保全、1999



- 十分な環境配慮対策ができない
- 事業の中止はほとんど不可能
- 開発行為の累積的影響の回避

事業段階では遅すぎる
計画、政策という戦略的な段階
での配慮が必要

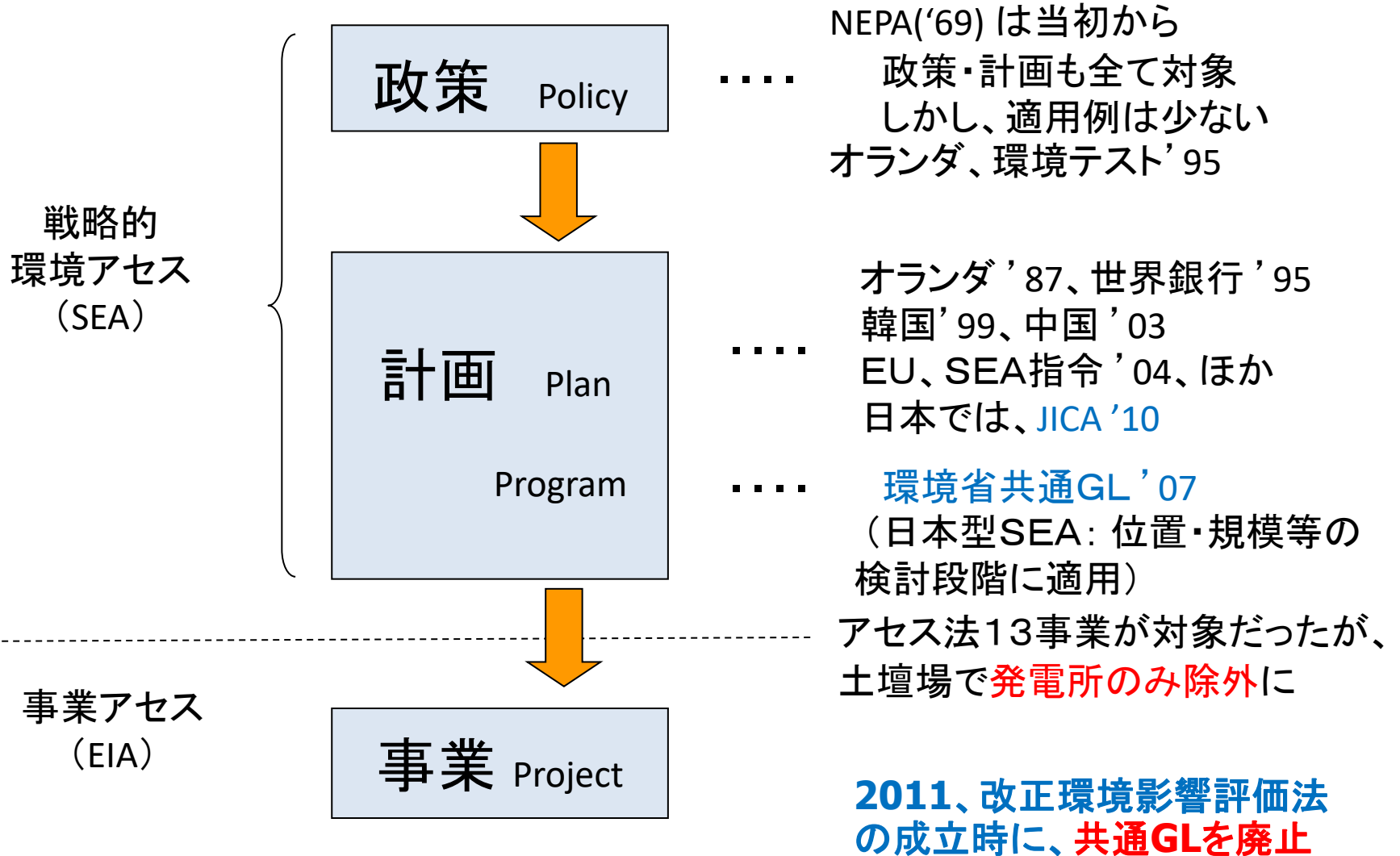
戦略的環境アセスメント(SEA)

環境影響評価法の改正(2011) 残された問題点

- (1) 対象事業の範囲が限定的
幅広く、まず、**簡易アセス**を実施
スクリーニングで、詳細アセス
- (2) **スコーピング**：
「意味ある応答」のされる場に
- (3) 代替案の比較検討の義務化：
SEAでは**ノーアクション案**の検討
- (4) 計画(plan)段階の**SEA**の導入
位置・規模等の検討段階
(program)
- (5) 審査：
外部専門家による**審査諮問機関**
- (6) **司法制度との連動**

「持続可能な開発のための**アカウンタビリティ**」

戦略的環境アセスメント



愛知万博 2005.3.25～9.25



愛知万博アセス

1998.4 - 2002.7

- 計画プロセスとアセスプロセス
博覧会テーマ: **自然の叡智**
- 環境影響評価法の枠組みを先行適用
博覧会国際事務局 (BIE) が要請
環境アセス実施を閣議決定 (1995)
- 4つの文書
方法書、準備書、評価書、修正評価書
- 市民参加で**計画の変更**, アセスプロセス外

アセスの結果、事業計画を変更

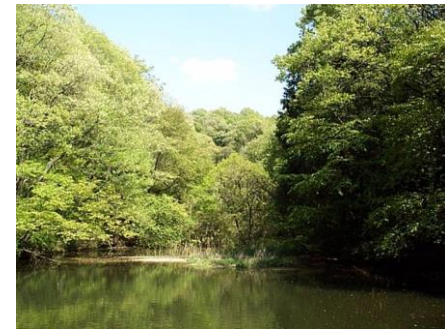
- **位置を変更**
「海上の森」のみから、
青少年公園中心に
- **規模も変更**
入場数 2500万人 → 1500万人

結果: 2200万人が入場、環境万博と認識
評判が上がり、万博は大成功

環境配慮が**大きな経済的効果**を生んだ

愛知万博の、計画案の変化

1999.2~2000.12



海上の森

案Ⅰ
準備書
(1999年2月)



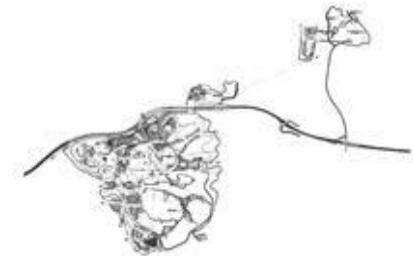
面積: 540ha (海上の森)
入場者数: 2500万人

案Ⅱ
評価書
(1999年10月)



面積: 540ha (海上の森)
220ha (青少年公園)
入場者数: 2500万人

最終案
BIEへの登録案
(2000年12月)



面積: 19 ha (海上の森)
163 ha (青少年公園)
入場者数 1500万人

JICA改定ガイドライン(2010)の特徴

- プロジェクトサイクルの全体を対象とする
世界銀行と同様の仕組みに
簡易アセスにより、原則全てのJICA事業を対象に
- 持続可能な社会づくりへ新たなODA
- 環境と社会の多様な側面を評価 (wide scope)
生物多様性保全是重要な評価項目
- より積極的なSEAの実施
マスタープランに戦略的環境アセスメントを適用
- 環境社会配慮助言委員会 (credibility)
外部専門家による組織、説明責任を果たす
- 異議申立制度 (compliance)

JICAの環境社会配慮制度 審査の信頼性を高めるシステム

JICA事業に対する異議申立登録は極めて少ない
異議申立登録数は、2件(2010～2019)

JICA: **0.2件/年**

世界銀行: **5.0件/年**
(総案件数は、JICAの2-3倍)

環境社会配慮**助言委員会**
(credibility)

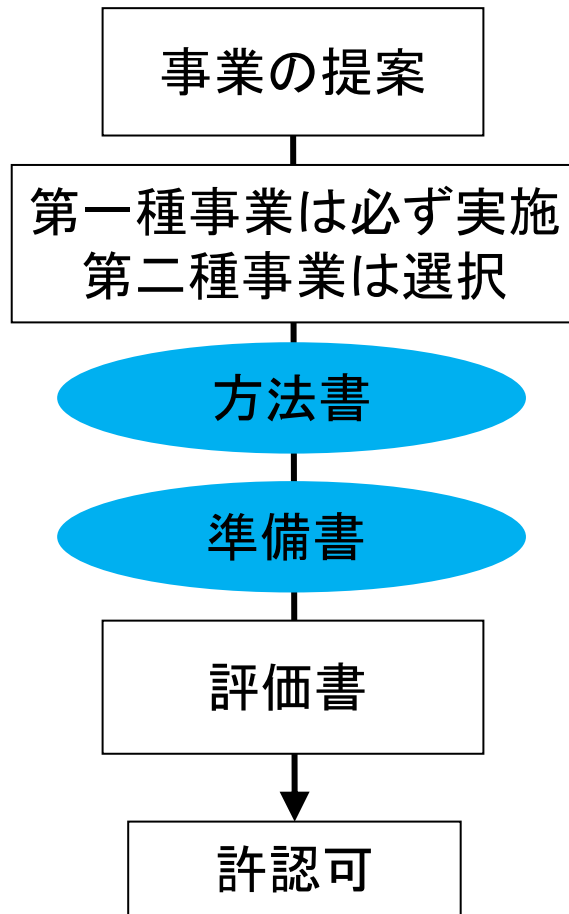
外部専門家で構成、
説明責任を果たす
透明な審査プロセス
審査会は公開、
議事録・資料をウェブ公開

国際的にも高い評価

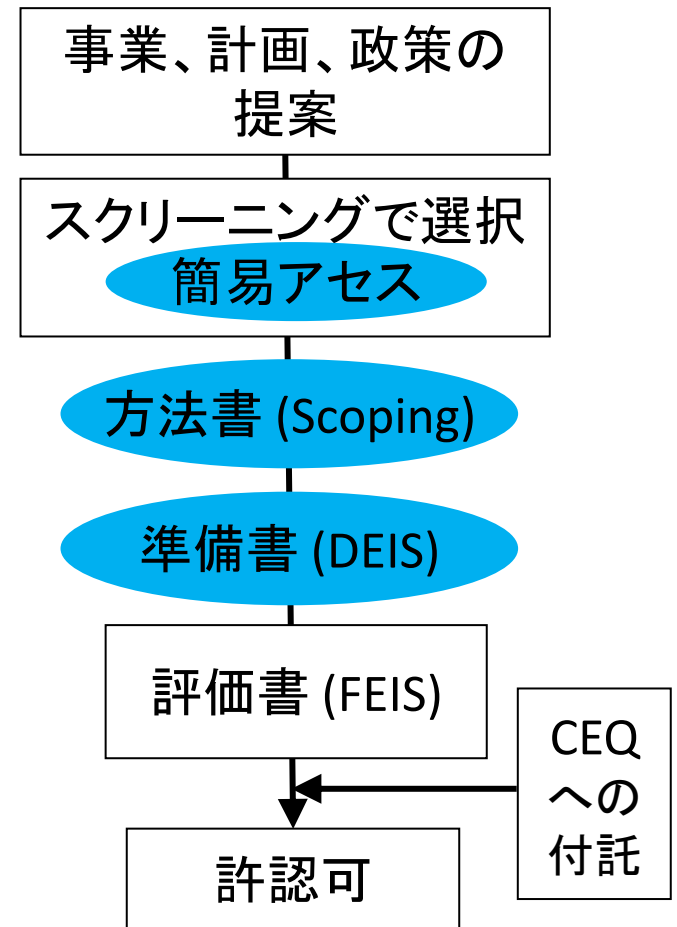


Institutional Award, IAIA
2019.5, Brisbane, Australia

日本 環境影響評価法 (1999年6月全面施行*)



米国 連邦政府 NEPA (1969年)



*2011年の法改正により、方法書段階の前に
配慮書段階が設けられたが、本図では省略

参加の機会